

見守り支援機器 介護施設型を 導入した成果報告

介護ロボットフォーラム
介護ロボットを活用した介護技術開発支援モデル事業
による成果報告
TOC有明 平成29年3月1日

なごや福祉用具プラザ 長束晶夫



社会福祉法人 名古屋市総合リハビリテーション事業団
なごや福祉用具プラザ

今回導入した介護ロボット 見守り支援機器 介護施設型



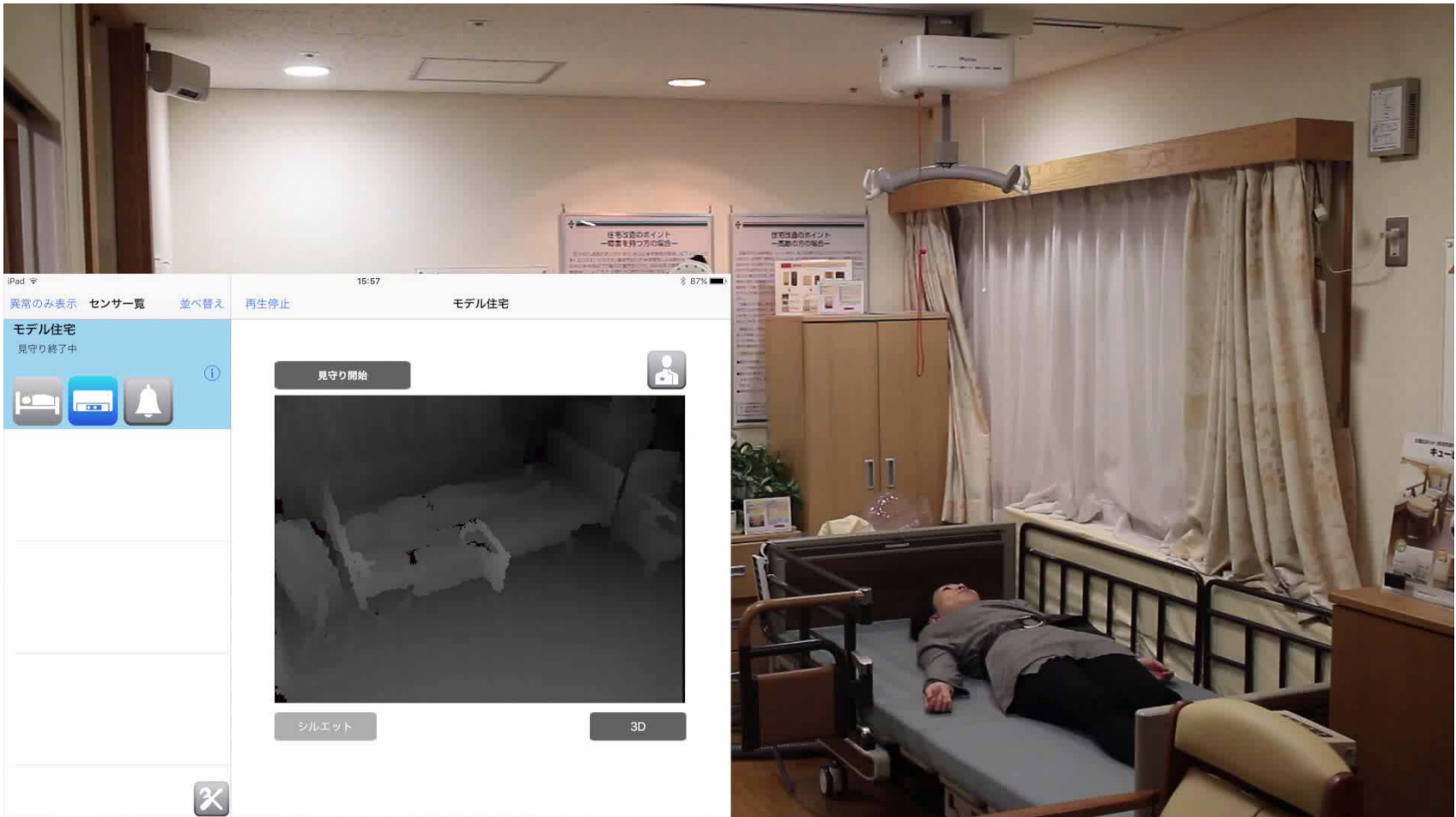
キング通信工業株式会社
「シルエット見守りセンサ」

特徴

- ・シルエット画像が確認できる
- ・はみ出し・起き上がり・離床等を検知
- ・検知前後の動画記録ができる
- ・暗い中でも見える
- ・非接触
- ・センサの移動が簡単

機器設置状況





事業計画の概要

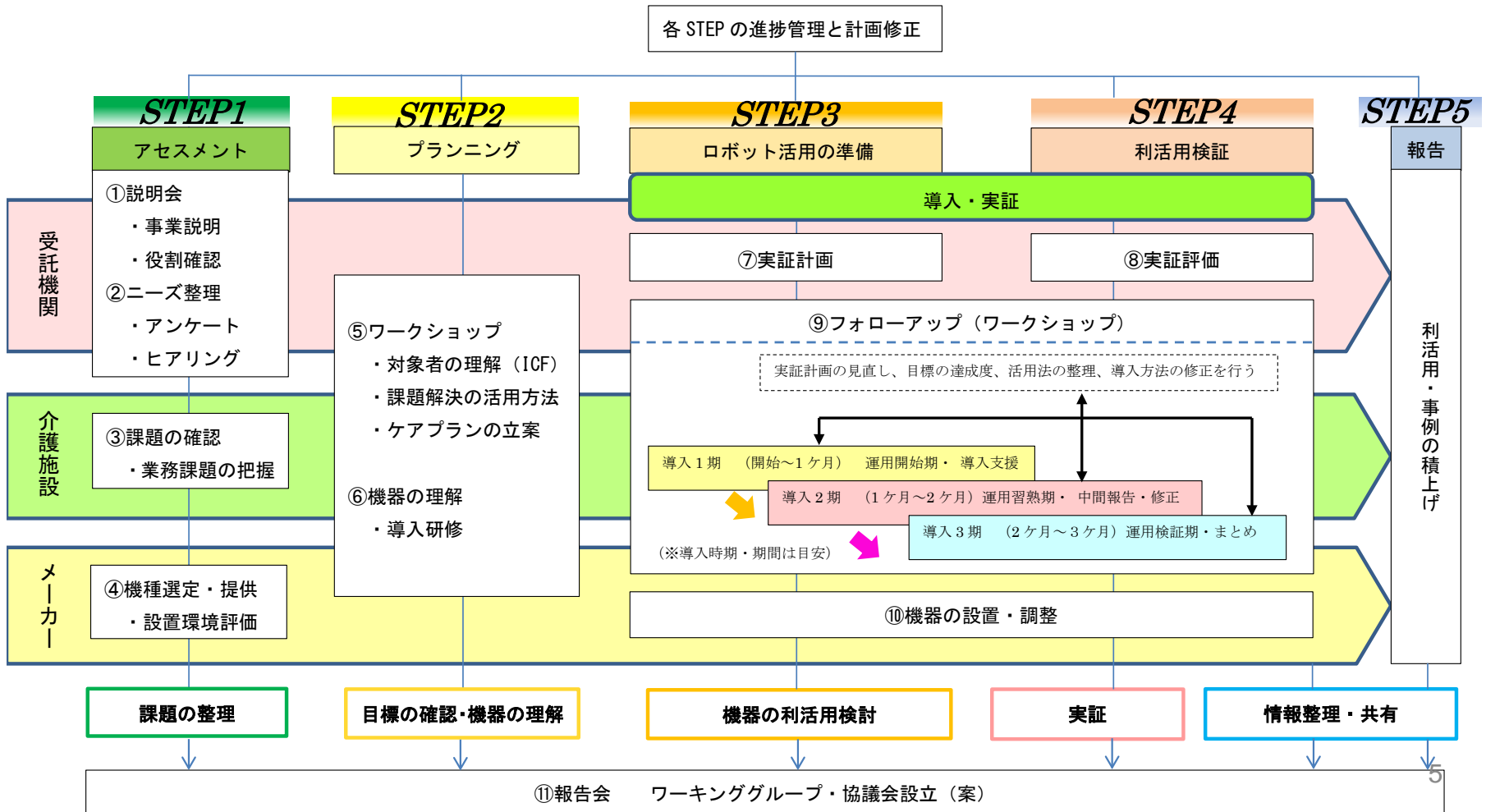
～5段階スキーム～

「介護ロボットを活用した介護技術開発支援モデル事業」

キーワード：「利活用の積上げ」「実証評価」「多職種連携」

〈狙い〉

・受託機関、介護施設、メーカーが一体となって介護ロボットの効果的な活用方法を協働で見出す。



チーム体制

- 仲介者：
社会福法人名古屋市総合リハビリテーション事業団
なごや福祉用具プラザ
名古屋市総合リハビリテーションセンター
- 連携介護施設等：
 - ①社会福祉法人なごや福祉施設協会
特別養護老人ホーム なごやかハウス野跡
 - ②社会福法人名古屋市総合リハビリテーション事業団
名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院
- 連携介護ロボットメーカー
キング通信工業株式会社

アセスメント(課題の整理)

a) リスクアセスメント(ベッド上からの転倒・転落防止)

- 転倒転落につながる行動を事前に通知することにより、事故防止を図る

b) 新規利用者の安全確保

- ショートステイ初回利用者等、生活実態の把握が難しい対象者、家族から十分なヒアリングができない対象者に対してアセスメントに用いる

c) 夜勤体制時のマンパワー確保

- 情報の一括管理をし、迅速な対応と効率的な業務体制を実現する

d) その他(発報時の状況把握、看取り介護、予想外の事象の把握、見守り機器への理解)

- 空間認識(非接触型)のため、失報率は低く、シルエット画像や履歴により利用者の体動の確認・行動分析が可能となる
- シルエット画像を利用して見守ることで、看取り介護実施体制の構築、検証に応用する

機器の特徴を生かした実際の活用例

a) リスクアセスメント(ベッド上からの転倒・転落防止)

立体空間エリアを設定し、動き(はみ出し・起き上がり・離床)を区別して検知できる

- ・離床時に検知する機器より早い段階で対応できる
- ・コールを押せない人が体動で発報できる
- ・日中、帰室での移乗時にも検知・対応ができる
- ・ベッドでの起き上がり時、普段と違う反対側から起きても検知できる

シルエット画像で状況確認ができる

- ・緊急度の把握をして、訪室対応の必要性を検討できる
- 安心感が増えた。

検知前後の履歴確認ができる

- ・対応記録の作成
 - ・アセスメント・モニタリング
- 指標が課題

赤外線機能

- ・夜間(暗がり)の使用

ブラケットで容易に移設ができる

- ・居室変更が可能

機器の特徴を生かした実際の活用例

b) 新規利用者の安全確保

シルエット画像で状況確認ができる 検知前後の履歴確認ができる

- ・新規で入所される方の生活行動を把握して情報共有するために使える

c) 夜勤体制時のマンパワー確保

シルエット画像で状況確認ができる

- ・検知時以外にも患者の居室の様子が確認できる→不要な訪室回数の軽減
→他の業務が行える

d) その他(発報時の状況把握、看取り介護、予想外の事象の把握、見守り機器への理解)

シルエット画像で状況確認ができる

- ・近位監視の心理的負担を軽減し、本人のペースでの活動が期待できる

現場の反応

- シルエットセンサがあることで行動が見れるので予測ができた
- 既存の機器より早い対応ができるようになった
- 複数のセンサの同時発報時、画像から緊急性の把握をしたうえで、訪室できるため、安心感が増えた
- 情報量が増えてこの機器があることが、普通になっている

→ 不安感の減少 安心感の増大

- 不要な訪室が減り、薬の準備など他の業務に集中できる時間が増えたこと

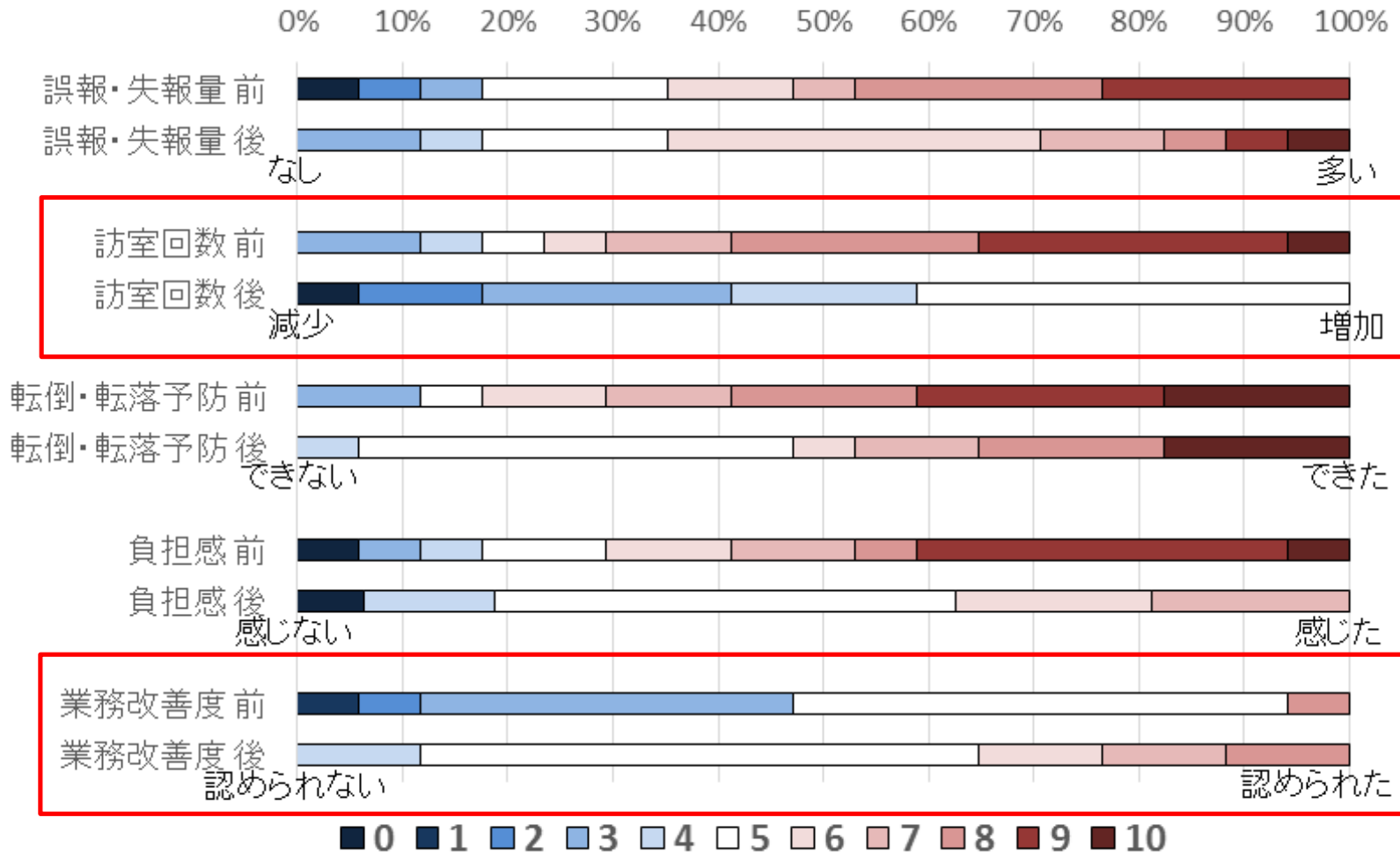
→ 業務効率化

実際の利用者のペース・行動パターン・環境設定が確認できた

→ アセスメント

アンケート結果

業務への影響



今後の課題

- **夜勤時の移動において**
 - タブレット端末と他のセンサ対応受信機持った移動は大変
 - 画像での見守りが行えれば同時に別業務も行える(効率的な業務につながる可能性)
- **機器・環境の設定や操作方法の周知とその対応の理解**
 - 見守りエリア設定方法の理解
 - 操作しやすいボタンなど表示画面や操作のカスタマイズの設定
- **実際の機器使用開始・後のサポート体制**
 - 機器の理解・操作の確認・修正・利活用のフォローアップ
→ 導入講習+機器の特徴「検知」「画像」に慣れる一定期間・後の機器操作の理解とサポート
- **履歴の活用**
 - 検知の日時・種類・画像だけでなく、行動パターンにつながるデータの作成
- **プライバシーと本人と家族の同意、ポリシーの問題**

さいごに

- 精神的な負担、リスクの軽減。
- 予測できるリスクにして、業務に組込む。
- サービスの質向上、業務改善に導入意義
- 機器の開発、導入、フォローアップまでの体制作りが必要。

Thank you for your attention!



社会福祉法人 名古屋市総合リハビリテーション事業団
なごや福祉用具プラザ